

地域でつながり 防災力向上!



災害が起こる前に互いに声を掛け合い、避難する。豪雨や台風などの自然災害発生時、早めの避難で守ることのできる命が多くあります。日頃のあいさつなどで生まれた、隣近所や地域の人たちとの顔の見える関係が、いざというときの声掛けや助け合いにつながります。平成30年7月豪雨の体験などから「共助」の大切さを考えます。

☎ 危機管理課 ☎ (082) 420-0400

まず自分の身を守る

できているか確認☑しよう

備蓄

- 食料 飲料水
- 薬、日用品
- 災害用簡易トイレ など

建物・室内の備え

- 自宅の耐震化、耐火性の確保
- 家具などの転倒・落下対策 など

情報共有

- 家族で災害時の連絡手段を確認
- ポータルサイトの登録・確認

市民ポータルサイトに登録を



避難指示などの災害情報をメールやLINEでお知らせ。地域を事前に登録できます。

New! 災害情報ポータルがオープン



避難所情報など災害情報を集約! 地域選択もできます。

- ハザードマップで自宅の災害リスクを確認



- 避難するタイミングや警戒レベルを確認……6ページ

自助

バランスが大事!
災害から命を守る
3つの「助」

公助

市や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など

行政の支援

共助

地域の人たちとの声掛け・助け合い

- ・地域の防災訓練への参加
- ・隣近所でいざというときに声を掛け合う など

最初に避難するきっかけになったのは?

NHK 被災者アンケートより
(広島県、岡山県、愛媛県の被災者 310 人対象)



呼び掛け が避難のきっかけに!

地域で連携し自主防災活動

防災キャンプが互いを知るきっかけに 御園宇自主防災委員会

1 平成30年7月豪雨では、御園宇小学校区内でも被害が発生



避難所が開かれ、市の職員が中心となって運営されました

2 被災した場合、一人一人が力を出し合い、互いに助け合わなければならない。住民が避難所を運営できるようにするには…

3 1泊2日の親子防災キャンプを開催



消防署員による救急救命講習



土のう作り



陸上自衛隊によるロープワークの指導



新聞紙スリッパ作り

参加者の声

地域について改めて知る機会になった

楽しみながら学ぶことができた

顔を知っていると災害時に声掛けしやすい

防災は「協力」が不可欠!

これまで、防災キャンプのほか、御園宇小学校区内4か所で防災訓練を実施しました。その中で見えてきた課題は、参加者の固定化。防災キャンプを終え、渡辺さんは「防災は日頃のつながりと協力が不可欠。1人ではできない」と実感したそうです。今後、防災活動に関わる人を増やすことを念頭に事業を計画する予定です。



御園宇自主防災委員会 事務局長 渡辺さん

子どもたちが防災キャンプで地域の人と学んだ経験をこれからの生活と防災に生かしてほしいです。

市の消防機関 **消防団** × 住民が防災活動を行う組織 **自主防災組織**

共同訓練で連携力がアップ!

高屋東小学校区住民自治協議会の自主防災組織では、過去の火災の経験から地元消防団に共同での防災訓練を提案。旧木原家住宅を会場に実施し、地域住民を含む約50人が参加。指導に当たった東広島市消防局は、消防車到着までの初期対応の大切さを呼び掛けました。訓練を通して顔見知りになることで、有事の際の連携のしやすさにつながると手応えを感じているそうです。



バケツリレーを体験



消火器や屋外消火栓設備を実際に使って訓練

地域で声を掛け合う 避難行動

1人では避難が困難な人を支援

災害時に、1人で避難することが困難な人をサポートするための「個別避難計画」を各地域（住民自治協議会など）で作成しています。支援を必要とする人と、支援する人が話し合い、避難や支援の方法などをあらかじめ決めておきます。

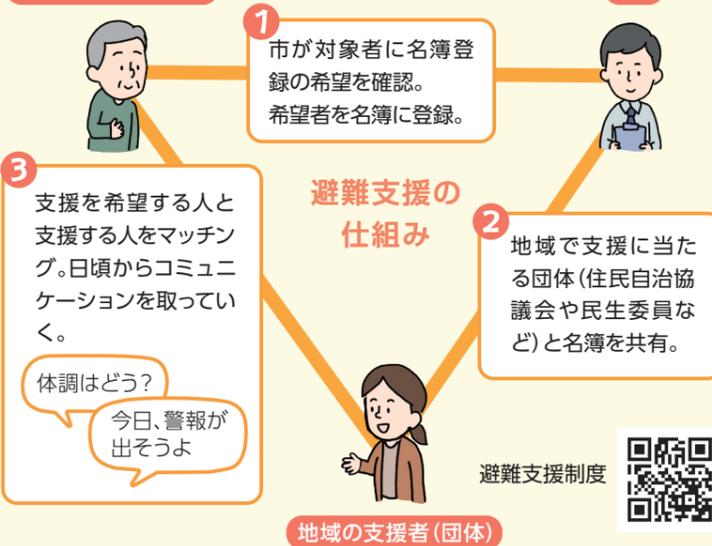
- ・誰が支援するか
- ・どこへ避難するか
- ・どんな手伝いが必要か



支援の対象となる人

- ・高齢者（要介護認定を受けている人など）
- ・障がいのある人
- ・その他、避難に支援が必要な人

支援の対象となる人



平成30年7月豪雨 7月7日の記憶

個別の声掛けの大切さを実感

洋国団地(黒瀬町市飯田)に土石流が起き、大きな石も流れ込みました

約50世帯のうち半数の家屋が被害を受けました

自治会では、災害時に助けが必要となる高齢者と障がいのある人を事前に把握

声を掛ける担当者を事前に決めていたため、安全に避難でき、けが人はゼロでした

団地の高齢化が進み、災害時に支援が必要な人はますます増えています。外国人住民もいるので言葉の壁の解消も課題です。

元民生委員児童委員 大野さん

誰もが安心できる 避難所に

point 避難所での多言語表示

外国人が避難所で安心して過ごせるよう、ピクトグラムや多言語で表記した案内板を用意しています。



Action 女性の意見を反映

避難所運営に女性の視点やニーズを取り入れるため、令和6年度に市の女性職員による意見交換会を開催。そこで出た意見は今後、市の避難所運営の手引きに盛り込んでいきます。



point ペットとの避難

避難所では、ペットは屋外での受け入れとなります。ペットと一緒に避難するため、ケージに慣れさせるなど、日頃から備えておきましょう。



check! 防災倉庫に日用品も備蓄

市では、生理用品、乳児用ミルクなどの日用品のほか、アレルギーに配慮した食料などを備蓄しています。

八本松住民自治協議会の工夫¹ 避難所の設営を迅速に

床に敷くシートに区画や通路を明示

床に敷くシートに、段ボールベッドの配置場所や通路の境界線をテープで示しています。シートを広げて、そのテープを目印に配置することでスピーディーに設営できます。

「見える化」で運営に関わりやすく

何をどこに置いているかを明記した手引きを作成する予定です。

ペット防災士を配置

屋外テントで過ごすペットを見守るため、ペット災害危機管理士を配置しています。



避難時の混乱を防ぎ、過ごしやすい避難所となるよう環境改善に力を入れています。

八本松住民自治協議会 災害対策本部長 土久岡さん

避難の行動や場所を 再確認

安全な場所にいる場合

- ▶ その場にとどまる

危険な場所にいる場合

- ▶ 市が指定する避難所に避難する
- ▶ 安全な親戚・知人宅に避難する



災害時の避難について

避難場所の一覧 → 6 ページ

New! 指定福祉避難所を設置(市内9か所)

避難所での集団生活が難しい要配慮者が対象。一般避難者とは別のスペースに支援者とともに避難することができます。保健師などの市の職員による巡回を実施します。

対象の要配慮者

- ・高齢者
- ・障がいのある人
- ・妊産婦
- ・乳幼児 など

- ▶ 避難生活に必要な食料・物品などは持参
- ▶ 避難生活の支援は家族などの介助者が担当

八本松住民自治協議会の工夫² 3人1組の体制で支援

要支援者1人につき、自治防災会長・自治会長・民生委員児童委員の3人が担当するよう個別避難計画を作成しています。無理なく支援が継続できるよう、日程の合う1~2人が自宅訪問をするなど工夫しています。



日頃からのコミュニケーションが避難時の支援につながります。防災活動も地域づくりも、できる人ができることをできる範囲で、楽しく!

八本松住民自治協議会 防災部会長 牧野さん